



第50号
4.2.28
発行 高等学校
島根県立平田高等学校
暁星会
印刷
(有)西村印刷

感謝の心で一隅を照らす



会長 山下 壮一

暁星会会員の皆様にかかれましては、日々ご健勝にてお過ごしのことと拝察致します。

平素より当会及び平田高等学校に対して、格別のご支援とご協力を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

この一年間も新型コロナウイルスの影響を受け、暁星会の諸行事も中止、また延期とすることが多く、会員の皆様方に多大のご迷惑をおかけしました。大変に心苦しく思っています。平田高等学校に於きましても、学業にクラブ活動に、学び舎での生活が全て苦難の日々でした。

そのような中で、令和三年三月に坂根昌宏校長先生がご勇退され、ご後任に小林努校長先生がご着任されました。小林校長先生は出雲市奥宇賀町のご出身で、格別の思いを胸に、多方面にわたり積極的に学校運営をなさっていらっしゃいます。

コロナ禍で体育部・文化部共に対外活動が厳しく制約される中、生徒達は開催された大会で素晴らしい活躍をしました。駅伝部は「島根県高等学校駅伝競走大会

に於いて、前年に引き続き「男女アベック優勝」しました。男子チームは二連覇、女子チームは十一連覇(十三回目の優勝)の偉業を達成しました。令和三年十二月二十六日、京都・都大路を男女チームそれぞれに前年のタイムを更新する力走をしました。今年には更なる飛躍が期待されています。近畿ご在住の卒業生をはじめ、島根県ご出身の沢山の皆様方に毎年、温かい応援をお寄せ頂き、心から感謝しております。

また柔道部は、令和三年十二月十八日に講道館で開催された「全日本ジュニア柔道体重別選手権大会」に於いて福田大和君が男子個人六十六kg級で優勝しました。そして令和四年一月二十八日にポルトガルで行われた国際大会に日本代表として出場し、五位入賞しました。

体育部・文化部それぞれの活躍は、今号の別頁でご報告されています。紆余曲折の苦渋の日々を、気丈に努力された生徒の皆さんに、心から敬意を表します。「夢を失わず希望の道を歩めば、必ずと道は開けます。

さて、令和二年八月の野球部甲子園出場に際しまして、会員の皆様方には格別のご高配を賜り、感謝の思いで一杯です。お寄せ頂きました浄財の残金を基に、令和三年五月に「平田高等学校後援会」が設立され、会長には不肖の身を顧みず私が就任しております。お蔭様で、体育部・文化部の活動の充実には各種の器具備品を設置するなど、

幾多の支援に併せて校舎周辺の環境整備も行っていきます。

沢山の皆様方のご温情を結集し「感謝の心を忘れずに一隅を照らす」思いで務めさせて頂いております。

令和四年度は「後援会会員募集」を計画しております。つきましては、会員の皆様方へ更なるご支援とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

結びに、会員ご一同様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

105年目の挑戦 「チーム平高」地域との協働



校長 小林 努

暁星会会員の皆様には、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

本校の教育活動に対してご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

校長として平田高校に赴任し、一年が経とうとしています。様々な場面で、皆様の後輩である現役平高生に元気をもらい、また触発される一年でした。

さて、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策をとりながら一部制限はありましたが、生徒の「学びを止めない」ことを念頭に教育活動を進めてまいりました。残念ながら十月に予定しておりました一年生の名古屋研修は次年度に延期しましたが、毎日の授業を含め、その他の諸行事はおおむね計画通りに実施できたように思います。

今年度を振り返り、学校の近況と生徒の活躍ぶりについてお伝えいたします。

令和三年四月九日に第七十五回入学式を挙行し、新入生百四十四名を迎えました。令和二年度末の出雲市内中学校卒業生が減少したため、一学級三十六名の四クラスで募集定員が百四十四名(例年百六十名)となりました。その新入生を加え、全校四三二名で新年度をスタートいたしました。

五月下旬から六月初旬にかけて、昨年は中止となった県高校総体が開催され、本校から総勢一六五名の選手が参加、男女ともに健闘し、敢闘賞を受賞しました。八月に北信越地方で開催された全国高校総体には柔道部二名、駅伝部三名、水泳一名が出場し、なかでも柔道男子個人66kg級において三年福田大和さんが準優勝を果たしました。福田さんは十二月に開催された全日本ジュニア柔道体重別選手権男子66kg級に

中国地区代表として出場し、高校生・大学生の有力選手を倒し優勝、日本一の栄冠に輝きました。一月にはポルトガルで開催されたグランプリ・ポルトガル2022に日本代表として出場し、五位入賞しました。今後ますますの活躍を期待するところで。

また、駅伝部は県高校駅伝で男子が二年連続二回目、女子が十一年連続十三回目の優勝を飾り、昨年に続き、男女アベックで十二月二十六日に京都市で行われた全国高校駅伝に出場しました。当日のレースでは男女ともに昨年の経験を生かし、落ち着いた粘り強い走りを見せ、男子が四十位、女子が三十位という結果でした。現地では近畿平田会の村田会長様をはじめ、多くの会員の皆様より温かいご声援をいただきました。校外での活動になります、ゴルフで全国大会、アイススケートフィギュア競技でインターハイ出場を果たした生徒もおります。

文化部門も健闘を見せ、放送部が第六十八回NHK杯全国高校放送コンテストにラジオドキュメント部門とテレビドキュメント部門で出場しました。部活動の詳しい結果については「令和3年度部活動の成績」をご覧ください。

令和の時代は、変化が激しく、予測不能で様々な経験したことがない課題が待ち受けている社会であると言われますが、高等学校教育においても大きな転換期を迎えております。学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たすことができるよう改訂された新学習指導要領が高等学校では令和四年度から年次進行で実施されます。各学校はこの学習指導要領に基づいて教育課程（カリキュラム）を編成するのですが、今回の改訂のポイントの一つとして「学ぶことと社会とのつながり」を意識し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指している点があげられます。

①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

②これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

③教育課程の実施にあたって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったり、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

とくに③については、今後の本校の学校

づくり、魅力化事業推進には必要不可欠であり、最重要事項であると考えています。

暁星新聞第49号でも紹介しておりますが、本校の教育活動の柱とも言えるべき、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」も締めくくりに時期を迎えました。連携協定を締結している平田商工会

議所、島根県立大学のご支援とご協力をいただきながら、地域との連携・協働により事業を進めてまいりました。本事業の核となるのは地域の課題解決に向けた体験的・探究的カリキュラムを通じた地域人材の育成です。生徒が地域での成功体験を積み上げ、将来的に地域で活躍したいという思いを育むことをねらいとしています。当初、

本校生徒の課題として自己肯定感・自己有用感、表現力、批判的思考力等があげられました。そして、三年間にわたる本事業の成果を考えたとき、高校魅力化評価システムによれば、地域肯定感や地域貢献意識、

社会参画意識、自己肯定感が高まるなど生徒の意識に大きな変容が見られました。探究学習の要素を取り入れた、いわゆる地域協働学習は「総合的な探究の時間」を軸に展開されています。「自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していく」ことがこの時間の第一の目標です。本事業は終わりますが、次年度以降もこの目標を掲げつつ、本校のすべての教育活動を通して、地域人材の育成に努めていきたいと思います。

以上のような生徒の活躍や本校の教育活動を卒業生の皆様をはじめ、様々な方々に支えていただいておりますことに心より感謝申し上げます。その一つとして、昨春、暁星会長長山下壮一様のご尽力により、平田高等学校後援会が発足いたしました。こ

れは一昨年、本校野球部が甲子園高校野球交流試合に出場した際に、皆様からお寄せいただいた浄財を今後の本校の教育振興に役立てるという趣旨で設立されたものです。今年度は部活動を中心に物心両面にわたる多大なるご支援とご協力をいただいております。

最後になりますが、このたび一四八名の卒業生が暁星会の新会員として、皆様の仲間入りをさせていただきます。諸先輩方からご指導ご鞭撻を賜り、良好な人間関係を築き、今後は学校外から母校を支える、よきサポーターになってくれることを期待しております。

会員の皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈りし、ご挨拶いたします。

部活動
上位大会
出場者から

柔道部

「世界への一歩」

柔道部 三年 福田 大和

高校日本一。これは私の最大の目標でした。

新型コロナウイルスの影響で一年間大会



がなく、三月の高校選手権で久しぶりに全国の舞台上立ちましたが、決勝で負けて2位。次こそはと臨んだ夏のインターハイでも決勝で負けて2位。初戦で怪我をするというアクシデントがあったものの、自分なりにしっかりと準備をして臨んだ大会だっただけに、もつと何か出来たのではないかと情けなく、非常に悔しい思いでいっぱいでした。

しかし、次の全日本ジュニア（20歳以下の全国大会）に向けてもう一度頑張ろうと決意しました。インターハイよりも更にレベルの高いこの大会で優勝するということは、更なる上のレベルまで自分を高めなければならぬという思いで、今まで以上に食事、睡眠、トレーニング、練習、日常のほぼ全てを柔道の為に捧げました。テスト勉強の為に練習時間を潰すことはしたくなかったため、授業も集中してしっかりと受けました。

練習相手が少なく、乱取り相手は多い時間で5人、部員の怪我で少ない時は1人の時もありました。全国の強豪校と比べると、恵まれた環境とは言えません。しかし、監督の高橋先生は私の選手としての感覚に耳を傾けて下さり、やらされる練習ではなく、考える練習ができるメニューを組み立てて下さいました。

そしてOBの方々の存在がなければ、今回の優勝はありませんでした。休みを使って稽古をつけて下さり、技術面、精神面でたくさんアドバイスをしてもらったことで、私は大きく成長したと思います。

試合当日は、大学生との試合もあり、一つも楽な試合はないとわかっていたので、上を見ず、目の前の試合だけを考え、粘り強く戦うこと、どんな試合でも必ずチャン

スは来る、そのチャンスを逃さないようにという意識で試合に臨みました。

決勝戦の前に、高橋先生が力強く「勝つぞ」と声を掛けて下さり、気合が入りました。優勝が決まり、先生と握手した時、今まで頑張ってきたよかったですと心の底から思いました。

最大の目標だった高校日本一よりもっと大きな、ジュニア日本一になることができました。

共に汗を流した柔道部の仲間、どんな時も支え励まし、いつも一丸となって目標に向かってくれた家族、私に関わってくれた全ての人に感謝したいです。

今後、更にレベルの高い大会、海外遠征が続きます。今回頂いたチャンスを活かし、世界一の柔道家に一步でも近付けるように引き続き努力していきたいと思っています。

「福田君は全日本ジュニア柔道体重別選手権大会の優勝により、1月28〜30日開催のグランプリ・ポルトガル2022に出場し、第5位という成績を収めました。」

駅伝部

「陸上競技を通して学んだこと」

松原 のどか

私は陸上競技を通して多くのことを学びました。それは毎日継続して練習することの大切さ、どのような環境でも努力を重ねることの重要さです。高校2年間はコロナ禍で、練習時間の制限やみんなと一緒に練習が出来なかったことなど自分たちの思うように練習ができない日々が続きました。しかし、そのような状況でも自分が掲げた、全国大会で活躍するという目標を忘れず練習

習を取り組んできました。平田

高校駅伝部に入部するまでは自分が全国大会で走れるようになるとは想像もしていませんでした。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し



の人の支えのお陰で諦めずに継続して高校生活最後の全国高校駅伝大会にむけて練習をしました。この大会が私にとって陸上生活の集大成の大会でした。しかし、大会直前に怪我をしてしまい出走することは出来ませんでした。中学校から陸上競技を6年間してきて一番悔しく、情けなかつたです。

多くの人に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。それでも大会当日、出走メンバーはもちろん、サポートメンバーも含めて全員で戦い抜きました。男女とも目標には届きませんでした。全国の舞台で走る仲間の姿は、本当に輝いていました。平田高校駅伝部に入部し、3年間最高の仲間と走ることができ、最後にこのメンバーで全国駅伝に挑んで心から良かったと思うことができました。走りではお世話になった方々に恩返しをすることは出来ませんでした。これからはその方々に感謝を伝える行動をしていきたいと思えます。そして陸上競技を通して学んだことをこれからの人生に大いに活かしていきます。

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

た。平田高校駅伝部に入部し

放送部

「放送部で得たもの」

三年 岩崎 創真



私は、放送部の活動を通して様々なことを学びました。

作るために、地域の方々に取材をさせていただきました。特に印象に残っているのは、私の家の近くに住んでおられるシジミ漁師の方に取材をしたことです。放送部に入る前までは、そのシジミ漁師の方のことを全く知りませんでした。「灯台下暗し」ということわざがあるように、取材をして、身近にも知らないことが多くあることがわかりました。また、取材ではほとんど初対面の人と話をするので、コミュニケーション力を高めることができたと思います。

また、校内放送や大会用の放送原稿を三年間書きました。私は、読書感想文などの長い文章を書くことが苦手でした。しかし、放送部で何度も文章を書いたことにより、長文を書くことへの抵抗が少なくなり、最後まで放送部の活動を続けたからだと思います。そこから、苦手なことでもやり続けると、できるようになることを学びました。

最後に、私は放送部で一年間部長を務めました。中学生のころに苦い経験をしたこともあり、皆をまとめるような役割は自分に向いていないと思っていました。しかし、ありがたいことに、先輩方から部長に任命していただきました。実際に動いてみると、その大変さを実感しました。やることは増え、責任は大きくなり、思い悩むこともありました。それでも、友だちや後輩の支えがあり、投げ出すことなく部長としての役目を果たすことができました。部長として活動する中で、臨機応変に対応する力をつけることができたと思います。

放送部では、自分一人だけの力ではできない貴重な経験をさせていただきました。三年間の高校生活を通して、部活動によって成長できた要素は多くあると思います。平田高校放送部に巡り会えたことに感謝しています。

令和3年度部活動の成績

国際大会

- 柔道部
 - ポルトガルグランプリ
 - 男子66kg級 5位 福田大和

全国大会

- 柔道部
 - 全国高校選手権 (令和3年3月)
 - 男子66kg級 2位 福田大和
 - 全国高校総体
 - 男子66kg級 2位 福田大和
 - 女子63kg級 出場 中島千波
 - 全日本ジュニア柔道体重別選手権
 - 男子66kg級 優勝 福田大和
 - 全国高校選手権 (令和4年3月開催予定)
 - 男子81kg級 出場 鳥屋尾翼
 - 女子63kg級 出場 中島千波

- 駅伝部
 - 全国高校駅伝 男子40位 女子30位
 - 全国高校総体 3000mSC 出場 尾林恒星
 - 3000m 出場 松原のどか
 - 800m 出場 森山紗仁美

- 水泳
 - 全国高校総体
 - 200m平泳ぎ 出場 西尾佳奈
 - フィギュアスケート
 - 全国高校総体
 - 出場 石原幸奈

- 放送部
 - NHK全国高校放送コンテスト
 - ラジオドキュメント部門「みんなで歌いたい！」
 - 代表 持田昂佑
 - テレビドキュメント部門「いつか地域のために～未来を担う高校生」 代表 吾郷誠斗

- 文芸図書部
 - 永井隆平和賞
 - 「高校生の部」佳作 田中悠真

中国大会

- 柔道部
 - 中国ジュニア柔道体重別選手権
 - 予選会 男子66kg級 優勝 福田大和
 - 男子90kg級 3位 戸倉 猛
 - 中国新人柔道大会
 - 男女団体戦出場
- 陸上部/駅伝部
 - 中国高校陸上 (男子)
 - 1500m 佐野泰斗、布野雅也 予選敗退
 - 5000m 志食隆希 12位、田原匠真 17位、加藤蒼梧 24位
 - 3000mSC 福島康大 予選敗退、佐々木一哲 12位、尾林恒星 3位
 - 4×400mR 中西結音、門脇花音、松原のどか、来間美月 予選敗退
 - 走高跳 黒田優太郎 13位 (女子)
 - 800m 森山紗仁美 6位、田邊 心 8位
 - 来間美月 7位、門脇花音 予選敗退
 - 1500m 松原のどか 5位、角 桃子 19位、青木愛葉 29位
 - 500mW 本田琴弓 13位
 - 4×400mR 中西結音、門脇花音、松原のどか、来間美月 予選敗退
 - 中国高校駅伝 男子6位 女子3位
- 剣道部
 - 中国高校剣道選手権
 - 女子団体戦 初戦敗退
 - 女子個人 三島野乃子、蔵敷 花、山根ななこ 初戦敗退
 - 男子個人 佐藤健太、長岡慶樹 初戦敗退
- 水泳
 - 中国高校選手権
 - 200m平泳ぎ 優勝 西尾佳奈 6位 松本瑚々菜
 - 100m平泳ぎ 5位 西尾佳奈 6位 松本瑚々菜
 - 200m背泳ぎ 7位 井上みづき
 - 100m背泳ぎ 8位 井上みづき
 - 4x100mフリーリレー 4位

- 常松志麻・石原瑠華・井上みづき・西尾佳奈
- 4x100mメドレーリレー 6位
- 井上みづき・松本瑚々菜・西尾佳奈・常松志麻
- 女子総合 6位
- 中国新人水泳選手権
- 100m自由形 8位 石原瑠華
- 100m平泳ぎ 3位 松本瑚々菜
- 200m平泳ぎ 7位 松本瑚々菜

- 放送部
 - 中国地区高校放送コンテスト
 - アナウンス部門 花田イタロ 小村唯斗
 - 朗読部門 三村海斗
 - オーディオメッセージ部門 「バイゾン～大きなお父さん～」 代表 花田イタロ
 - ビデオメッセージ部門 「挑戦」 代表 長廻 樟大

- 文芸図書部
 - 高校生文芸道場中国ブロック文芸コンクール
 - 俳句部門 優良 小林 南
 - 短歌部門 入選 小村唯斗

島根県総合体育大会 (県大会等)

- 陸上部/駅伝部
 - 男子総合：3位 (トラック4位)
 - 女子総合：4位 (トラック1位)
 - 男子 1500m 3位 佐野泰斗 5位 布野雅也
 - 5000m 2位 志食隆希 3位 田原匠真
 - 4位 加藤蒼梧
 - 3000mSC 優勝 尾林恒星 2位 佐々木一哲
 - 5位 福島康大
 - 女子 800m 2位 森山紗仁美 3位 田邊 心
 - 4位 多久和陽菜
 - 1500m 優勝 来間美月 2位 門脇花音
 - 3000m 優勝 松原のどか 2位 角 桃子
 - 6位 青木愛葉
 - 5000mW 優勝 本田琴弓

- 柔道部
 - 男子団体 準優勝
 - 女子団体 3位
 - 66kg級 優勝 福田大和
 - 81kg級 3位 鳥屋尾翼
 - 90kg級 2位 戸倉 猛
 - 63kg級 優勝 中島千波

- ソフトテニス部
 - 団体戦：1回戦 VS三刀屋 1-2 敗退

- バスケットボール部
 - 男子 1回戦 平田 47 対 61 松江南
 - 女子 1回戦 平田 38 対 65 益田翔陽

- バレーボール部
 - 2回戦 平田0-2三刀屋

- 剣道部
 - 女子 1回戦 ○2-1横田
 - 2回戦 ●1-2出雲商業

- 卓球部
 - 男子団体 ベスト8
 - 女子団体 ベスト16

- テニス部
 - 団体戦
 - 1回戦 VS 松江南 0-3

- サッカー部
 - 1回戦 平田2-1松江工業
 - 2回戦 平田0-3益田東

- 水泳
 - 50m自由形 2位 石原瑠華
 - 3位 常松志麻
 - 100m自由形 2位 常松志麻
 - 3位 石原瑠華
 - 100m背泳ぎ 優勝 井上みづき
 - 200m背泳ぎ 優勝 井上みづき
 - 100m平泳ぎ 優勝 西尾佳奈
 - 2位 松本瑚々菜
 - 3位 曾田早希
 - 200m平泳ぎ 優勝 西尾佳奈
 - 2位 松本瑚々菜
 - 4位 曾田早希
 - 4x100mフリーリレー
 - 優勝 常松志麻・石原瑠華・井上みづき・西尾佳奈
 - 4x100mメドレーリレー
 - 優勝 井上みづき・松本瑚々菜・西尾佳奈・石原瑠華
 - 女子総合 優勝

●野球部

- 全国高等学校野球選手権島根大会
- 2回戦 平田3-2益田翔陽 (延長11回)
- 3回戦 平田0-8矢上 (7回コールド)
- 島根県高等学校秋季野球大会
- 一次予選
- 2回戦 平田0-5松江南

●吹奏楽部

- 全日本吹奏楽コンクール島根県大会高校Aの部
- 銀賞
- 全日本アンサンブルコンテスト島根県大会
- 高等学校の部 銀賞 (管楽四重奏)
- 島根県高等学校音楽コンクール
- 銀賞 角 魁人 (金管楽器部門)
- 金賞 片岡直幹 (金管楽器部門)

●JRC部

- 高校生ボランティア・アワード 2021 風に立つ
- ライオン基金より努力と成果を称え表彰

●文芸図書部

- 島根県高文連文芸専門部文芸コンクール
- 俳句部門 優秀作2位 小林 南
- 優秀作3位 野津歌純
- 短歌部門 優秀作2位 田中悠真
- 優秀作3位 小村唯人
- 詩部門 優秀作3位 小村唯人
- 随筆部門 優秀作2位 持田光稀
- 文芸誌部門 優秀作

●放送部

- NHK 高校放送コンテスト
- アナウンス部門 吾郷誠斗 決勝進出
- ラジオドキュメント部門 優秀賞
- 「みんなで歌いたい！」
- テレビドキュメント部門 最優秀賞
- 「いつか地域のために～未来を担う高校生～」
- 島根県高等学校総合文化祭放送部門
- アナウンス部門 優良賞 花田イタロ、小村唯斗
- 朗読部門 優良賞 三村海斗
- オーディオメッセージ部門 優良賞「バイゾン～大きなお父さん」 代表 花田イタロ
- ビデオメッセージ部門 優良賞「挑戦」 代表 長廻樟大

●美術部

- 島根県高校美術展 入選
- 松本結菜、錦織みゆう、原田桃葉、二宮涼寧、角 千聖、岩本 悠、狩野アレイナ

●写真部

- 県高文連写真専門部 春季写真コンクール
- 特選 清水 桂、本田彩葉、川上 遥、河野ほのか、成相日菜、福間咲弥、牛尾友紀、福間なぎさ、木村 茜
- 県高文連写真専門部 秋季写真コンクール
- 特選 本田彩葉、清水 桂、川上 遥、土江大輝、足立碧鳥、清水万由、牛尾友紀、内藤真結子、高砂昂河
- 島根県高等学校写真展
- 奨励賞 川上 遥

進路の状況

進路概況(延べ数)

合格先	卒業年度		H30年度		R元年度		R2年度	
	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒
入学者数	国立大		20	5	13	10	14	2
	公立大		26	2	27	1	30	3
	私立大		45	5	46	4	39	3
	文科省所管外の大学校				2			
	公立短大		5		2		8	
	私立短大		10		7		13	
	文科省所管外の短期大学校		7		4		4	
	看護学校		9		11		6	
	その他		11		25	1	19	
	計		133	12	137	16	133	8
就職者数	企業		4		2		1	
	公務員		2		5		5	
	計		6	0	7	0	6	0
未定		16		9		16		
卒業者数		155	12	153	16	155	8	